

1、単元名

『大和物語』の「をばすて山」を読み、現代社会の問題点を考える

2、単元の目標

- ・古文を読解する上での、基本的な知識と技能を学習する。（知識・技能）
- ・全文の口語訳を試み、あらすじをとらえる。（知識・技能）
- ・和歌の鑑賞方法を学び、歌物語というジャンルについて理解する。（知識・技能）
- ・他の姨捨伝説と合わせて読むことで、教材に興味を持たせる。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・この文章から各自が問題点を見出し、それが現代の課題とどのように結びついているかをグループで話し合う。（思考・判断・表現）
- ・日本の社会が抱える課題に目を向け、それに自分がどう関わるべきかを考えさせる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3、単元について

(1) 教材観

「をばすて山」は、平安時代の歌物語である『大和物語』の中のもので、初学者にも読みやすいポピュラーな教材である。古典の中では『今昔物語集』や『俊頼髓脳』『枕草子』にも棄老伝説としての類型を見出だすことができ、現代小説でも『檜山節考』として描かれ、映画化もされていることで内容を知っている生徒も多いことだろう。本作品は比較的古い形であり、表現が粗削りであることで、却って読者の想像力を膨らませ、様々な解釈が可能になるという点で魅力に富む作品である。また、この作品は現代社会に通じる課題を内包しており、古代の人々が現実の生活でどのような問題意識を抱いていたかを知る手掛かりとなる。

(2) 生徒観

高校1年生、女子19名のクラス。授業に対して前向きな姿勢で取り組み、発言にも積極性が見られる生徒集団である。高校入学以来、説話文学、『伊勢物語』などに触れ、少しずつ古典作品の世界観を見出しはじめているが、基礎的な知識の習得段階であり、きめ細かい読解をするにはまだ教授者の助言が必要である。また、古典の学習イコール「文法を覚えて口語訳をするもの」という意識があるようで、現代の自分たちと関連づけて考えることには慣れていない。幸い、本校では数年前から「生徒間の対話のある授業」が推進されており、生徒同士が討論をする機会が多いので、生徒間の話し合いはスムーズに進行することができる。

(3) 指導観

SDGsをイベント的な学びにとどめず、通常の授業教材の中でも扱っていきたいと考えている。そのために生徒の思考を深めうる教材や参考資料を取り上げ、多面的にとらえさせることを心がけている。古典作品の中に現代の社会にもつながる問いがあることに気づかせ、当時の人々がその課題をどう解決しようとしたのか、また、なぜ解決できなかったのかを考えさせたい。その学びからの発展で、自分自身が生きる現代社会の問題意識につなげていくことを目指したい。

「をばすて山」という教材の場合、「高齢化社会」や「ジェンダー」という問題点が生徒から提起されることが予想される（実際の授業でもその2点が問題提起された）が、それを発端にして高齢化社会の現状と将来の課題について調べさせたい。また、グラフやデータを読み取ることで現状の分析をさせ、将来を予測する力をつけさせたい。加えて企業や他国での具体的な取り組み事例などを調べ、実際の高齢者との対話の機会を持つことで、幸福感とは何かを考えさせ、多くの人々がこの課題について取り組んでいることを認識させたい。

最終的に自分がこの課題に主体的に関わり、何に取り組むべきかについて考察させたい。

(4) ESD との関連

○本学習で働かせる ESD の視点

- ・相互性…今から 1000 年以上前に書かれた古典作品の中に、現代の社会と共通する課題を見出す。
- ・公平性…社会的弱者と共生できる世の中のありかたについて考えを深める。
- ・連携性…社会的なシステムの構築や企業的な観点やテクノロジーの活用という、より具体的な取り組みについて調べる。

○本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ・クリティカルシンキング
一見ハッピーエンドに見えるこの作品が、実は何の解決も示されていないことに気づかせ、現代社会と比較した時に、当時はどんな概念や社会的なシステムが不足していたのかを考えさせる。
- ・長期的思考力
総務省や内閣府の「高齢化白書」を読み取り、社会の現状や将来の見通しを考察し、実際の自分の人生に落とし込んで他者との関係の中でこの問題について考える。
- ・コミュニケーション力
現代の問題に対して、何が課題になっているのか、その解決のためにどのような取り組みがあるのかをそれぞれが調べ、グループ内で意見交換をして自分の意見を深め、まとめていく。

○本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・世代間の公正 →自分たちの生活の安定を求めだけでなく、次世代の人々に受益と負担の不均衡をもたらさないための対策を考察していく。
- ・人権・文化を尊重する価値観 → インクルーシブな社会の構築を意識させる。
- ・幸福であることを大事にする価値観
- ・未来を予測する力

○達成が期待される SDG s

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 5 ジェンダー平等を達成しよう
- 11 住み続けられるまちづくりを

4、単元の基準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①重要古語の意味や助動詞のはたらきに留意して、正確な訳出ができるようにする。</p> <p>②修辞に気をつけながら和歌を読解・鑑賞する。そのうえで地の文と和歌とが融合した「歌物語」の世界を読み味わう。</p>	<p>①登場人物の言動からその心情を考え、事の顛末や当時の風習などについて意見交換をしながら考えをまとめる。</p> <p>②なぜ、このようなことが起きたのか、この作品の中で何が問題なのかを考え、グループで意見をまとめる。</p> <p>③参考資料の内閣府の「高齢化白書」等のデータを分析し、現代の日本の高齢化の現状について話し合う。</p>	<p>①予習をして授業に臨む。</p> <p>②ペアワークやグループ討論に積極的に参加する。</p> <p>③関連する作品についても読み取り、どのような異同があるかを検証する。</p> <p>③高齢化社会やジェンダーの問題の解決に向けて、他国の取り組みや企業の取り組みの具体的な事例を調べる。</p> <p>④これらの課題に対して、自分がどのような取り組みができるか、自分のこととして解決法を考える。</p>

5、単元の指導計画（全5時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価備考
1	<p>基礎読解</p> <p>①『大和物語』についておおまかな知識を得る。</p> <p>②ペアで音読をして話の概略をつかむ。</p> <p>③重要古語の意味、助動詞に注意して正確な訳出をする。</p>	<p>○歌物語について基本的な知識をつけさせる。</p> <p>○きちんと読めているか、正しい音読を指導する。</p> <p>○重要古語や文法事項に留意させ、正確な訳出の方法を学ばせる。</p>	<p>ア（知技）</p> <p>①②</p> <p>ウ（主体的）①②</p>
2	<p>内容読解</p> <p>①「男」が「をば」を捨てるに至った経緯をたどる。</p> <p>②和歌をもとに「をば」を捨てた男が迎えに行くまでの心情を考える。</p> <p>③グループで「男」「をば」「妻」の役を演じて、それぞれの心情を考えてみる。</p>	<p>○発問をしながら、本文に即した読解を促す。</p> <p>○生徒間の対話のある授業展開を意識する。</p> <p>○生徒自身に登場人物を演じさせることで実際の状況を感じさせる。</p>	<p>イ（思判表）</p> <p>①②</p> <p>ウ ①②</p>

3	<p>発展学習(1) 《イメージを膨らませる》</p> <p>①『枕草子』を合わせ読み、同じ内容である部分や内容が異なる部分を検証する。</p> <p>②①について個人で考える。</p> <p>③グループで話し合い、意見をまとめて発表する。</p> <p>④映画の『檜山節考』を見る。 (10分程度の予告編のようなもの)</p> <p>⑤①～④の学習を通して、時代を超えてこのテーマが語られていることを知る。</p>	<p>○『枕草子』を参考として準備し、教材との異同を読み取らせる。</p> <p>○『枕草子』にでてくる話では、老人の知恵によって国が救われ、老人を捨てようという考えを改める内容になっていることに注目させる。</p> <p>○映画の視聴によって、現代と昔の高齢者観の違いや当時の老人問題には貧困などがベースにあることにも気づかせる。</p>	<p>イ ウ ① ② ウ ③</p>
4	<p>発展学習(2) 《自分ゴトとしてとらえさせる》</p> <p>①「をばすて山」から「高齢社会」の問題について考察していく。</p> <p>②①で出された問題点について日本の現状と将来を、資料をもとに考える。 例) 高齢化率 2021年 28.9% → 2065年 38.4%</p> <p>③自分の未来予想図を作成し、2065年の自分がどのような状況の中で生きているのかを想像してみる。</p> <p>④社会の抱える問題点を認識する。</p>	<p>○「高齢化社会」をテーマに資料分析を試みる。</p> <p>○参考資料として「内閣府 平成3年度 高齢社会白書」を提示し、現状と将来の読み取りをさせる。</p> <p>○自分自身の未来予想図を作ることで、現在の高校生は日本の高齢化率がピークを迎える2026年に50代になり、子育てと介護の両方を抱えていくことを想定させる。</p> <p>○家庭基礎での「高齢者体験」の授業と並行しながら、当事者の立場に立って何が必要かを考えさせる。</p>	<p>イ ② ウ ② イ ③ ウ ④</p>
5	<p>発展学習(3) 《実際の取り組みを学ばせる》</p> <p>①「高齢化白書」に基づいて「健康寿命と平均寿命の差」や「高齢者の活動や生きがい観」などについても考察する。</p> <p>②総務省や経団連が作成した「society5.0」の動画を視聴する。</p> <p>③将来の日本の高齢化対策として、企業が取り組んでいる例について調べ、共有する。</p>	<p>○「society5.0」の動画の視聴を通し、近未来の生活をイメージさせる。</p> <p>○高齢社会の対策として企業が推進している事例を調べさせる。</p> <p>○高齢者にとっての幸福感とは何かを考えさせ、自分がどう関わっていくべきかを話し合わせる。</p>	<p>ウ③④ ウ ② ③ ④</p>
後日	<p>○日本同様に高齢社会を迎える国々(中国・韓国・シンガポール)の青少年と意見交換をする場を設ける。</p> <p>○高齢者たちとの意見交換の場を設ける。</p> <p>○ボランティア活動に参加してみる。</p>	<p>○かなり発展的な内容なので、他教科や生活指導部などの力をお借りし、探究の時間や課外活動等、国語の授業の枠を超えて実施していきたい。</p>	